

20th
anniversary

NPO(特定非営利活動法人)

穂の国森づくりの会

創立20周年記念誌

20年のあゆみ



N P O Honokuni Forestry Association

えええじやないか
穂の国
森づくりの会
えええじやないか
ヤマサちくわ

祝
20周年



昔も今も変わらぬ旨さ

豊橋名産

ヤマサちくわ

◆ヤマサちくわ株式会社 豊橋市下地町橋口30-1 TEL0532-52-7139 <https://yamasa.chikuwa.co.jp>

穂の国森づくりの会創立20周年記念誌

目次

ごあいさつ	1
愛知県東三河地域の森林の歴史	2
穂の国森づくりの会誕生まで	3
特定非営利活動法人穂の国づくりの会設立趣意・目的	4
活動紹介	6
政策提言	7
● 穂の国づくりプラン	
自然林再生の試み	13
● 穂の国みんなの森活動	
● 穂の国石巻の森活動	
自主的森づくり活動(プリティフォレストクラブ)	14
● 未蕾の森づくり	
● 田峯の森整備	
● 森林整備ボランティア、森づくりの作業指導	
啓発活動	15
● 森林整備体験	
● 自然観察会	
● 講演会・セミナー	
● 定例交流会	
● 機関紙フォレスト	
● 森づくりベンダー	
● 木育推進・木材の利用拡大	
環境教育活動	19
● 親子キャンプ	
● 小学校訪問授業・野外体験授業	
● 豊川市野外教育活動支援	
● ウッドパーク平尾	
企業団体の森づくり支援	22
20周年の歩み(年表)	23
創立20周年記念事業	27
穂の国森づくりの会の新たな取り組み	32
編集後記	33

ごあいさつ

特定非営利活動法人
穂の国森づくりの会
理事長 神野 吾郎



穂の国森づくりの会は、愛知県東三河の森林保全・育成、再生を通じて、循環型社会の実現を図ることを目的として1997年4月12日に任意団体として活動を始め、本年で20周年を迎えることができました。ひとえに当会の活動に関わっていただいた皆様のご理解とご支援の賜物と、心から厚く感謝申し上げます。

当会は地方にありながらも、市民・企業・行政のパートナーシップによる森林保全活動や小学校への森林環境教育支援活動など、新たな取組みを多数実行し、内閣府特命大臣賞や林野庁長官賞を受賞するなど、全国的にも高い評価をいただきました。なかでも1999年に発行した「穂の国森づくりプラン」は、21世紀の森林と地域社会のあり方について一石を投じた提言書で、今なお全国から注目されています。

このプランでは、愛知県東三河地域の森林を通じて持続可能な地域社会を実現するための提言をしております。その一つが「穂の国森林祭2005」です。愛・地球博が開催された2005年をメインに東三河地域の森林にかかわる様々な討論、交流、体験などの事業を実施しました。その結果、愛・地球博地域連携プロジェクト事業の中で最大級の事業になりました。もう一つは、東三河地域の上下流の8市町村が一体となって水道使用量1トンにつき1円の資金を森林整備のために拠出するという仕組みづくりです。これは2005年に実現し、年間約8,400万円が、(公財)豊川水源基金の「水源林保全流域協働事業」を通じて水源林の整備などに使用されています。

また、今後の森づくり活動を取り巻く環境も大きく変化していきます。2009年に愛知県により「あいち森と緑づくり税」が、2019年には国により森林環境贈与税(仮称)、2024年から森林環境税(仮称)が導入されることにより、愛知県東三河地域の森林整備も今後一層進むことが予想されます。また、設楽ダム建設に伴い水源地域のインフラ整備も進んでいます。

世界へ目を向けますと、2015年に持続可能な社会・地球環境を構築するための世界共通目標であるSDGs (Sustainable Development Goals) が国連サミットで採択されました。このなかでも森林再生は、重要なテーマの一つとなっており、日本のみならず、世界規模で取り組みが進んでいくことが予想されます。

愛知県東三河地域は、高齢化や人口減少などに直面しており、持続可能な「まち」をつくり、未来を切り開くために、積極的に新たな取り組みを実践していく必要があります。当会といたしましても、「森」というテーマで愛知県東三河地域の持続可能な社会の実現に貢献していきます。今後とも、より一層のご理解とご支援をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

愛知県東三河地域の森林の歴史

中世頃までの東三河地域の森林は、燃料や木地用などで局所的に利用されるだけで、自然林が多く残されていたと思われます。

近世中期頃になると、徐々にスギなどの人工林化が進み、また、新田開発による肥料用の採草地として広く利用されるようになりました。このころから東三河地域の森林は、荒廃が顕著化してきました。

明治時代中期になると、隣接する天竜地域の影響を受け、全国の中でも比較的早い段階からスギ・ヒノキの人工林化が進みました。

さらに、第二次世界大戦後の復興から高度経済成長期の木材好況を背景に人工林化が進みました。その結果、現在の東三河地域の人工林率は、全国平均を大きく上回る約80%になりました。

しかし、1970年代になると、林業を取り巻く不況は年々厳しくなり、人工林の放置化が進み始めました。放置された人工林は、水源涵養や災害防止などの森林の持つ多面的機能が低下し、私たちの安全で快適な暮らしを脅かすことが懸念されています。



放置された人工林



渇水時の宇連ダム



増水した豊川



穂の国森づくりの会誕生まで

— 設立の経緯 (1995年～1997年) —

穂の国森づくりの会は、社団法人(現:公益社団法人)豊橋青年会議所が1995年に実施したまちづくりに関する市民アンケートの結果を受け勉強を重ねるなか、愛知県東三河地域の水源の森林が放置され、将来、東三河地域の水と緑の環境に極めて重大な影を落とすことに気付いたことに始まります。

この問題意識を受け、愛知県東三河地域の6つの青年会議所(当時:豊橋、豊川、蒲郡、田原、新城、奥三河)、豊橋商工会議所、豊橋市役所が協働で勉強会を重ね、グラウンドワークの手法による森林保全・環境保全の取り組みを模索しました。この勉強会は「**コナラの会**」と呼ばれ、穂の国森づくりの会の前身といえる組織体となります。

さらに、東三河地域の6つの青年会議所は、地元の森林組合や農協など約70箇所のヒアリングを重ね、「**コナラの会**」の趣旨に賛同し、東三河地域が一体となって森林の保全に取り組むことのできる会の設立が望まれていることに気付きました。

以上のような流れを受け、設立準備を進めた結果、1997年4月12日に豊橋勤労福祉会館(現:アイプラザ豊橋)で設立総会が開催され、「**穂の国森づくりの会**」が誕生しました。



穂の国とは?

大化の改新以前、「穂の国」と呼ばれた地域がありました。愛知県の東部、豊川流域の中下流からなる実り豊かな地域であったようです。

現在、「穂の国」の名は、「愛知県東三河地域」の総称として幅広く愛用されています。

「穂の国森づくりの会」の名称もこれに由来しています。

特定非営利活動法人穂の国森づくりの会

設立趣意(2000年9月NPO法人化)

本会の活動は、主に、かつて「穂の国」と呼ばれた東三河流域圏で取り組まれます。流域の動脈をなす河川の流れは、水源森林に貯えられた水を源流とし、その水量と水質は、地域の自然環境と生活環境、そして湾海の豊かさを左右しています。

森林はまた、急峻な山地の崩壊を防ぎ、木材を産出し、動植物の生息地となり、CO₂の吸収源となり、人々の憩いの場ともなっています。

このかけがえのない森林を将来にわたって保全し、持続的に活用していくには、森林の恩恵を肌で感じとれる流域単位での取り組みが欠かせません。

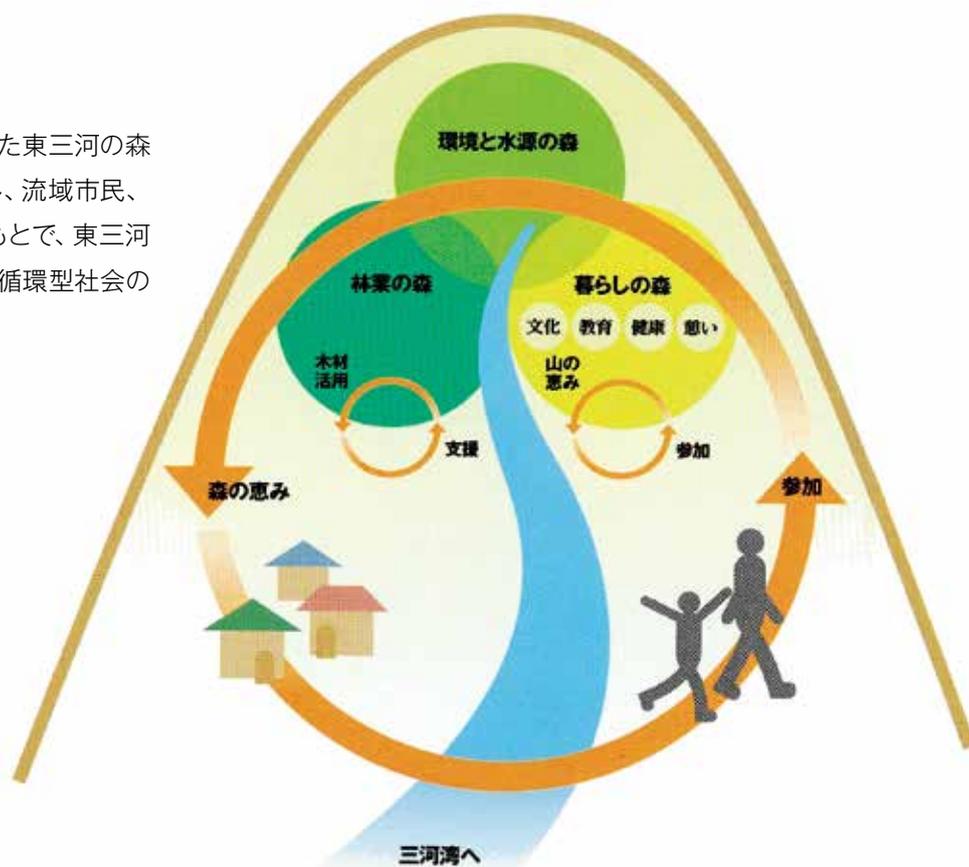
一方、人類はいま、大量生産・大量消費・大量廃棄の環境破壊型システムから、持続可能な循環型システムへの転換を目指して、地球規模での挑戦を始めています。産業先進国に住む私たちの責任は、ひとしお重大です。

私たちは、循環型社会の実現に、流域の森づくり活動を通して貢献したいと考えています。森林が、循環型社会の形成にはかり知れない役割を果たすだろうと確信するからです。私たちは、そのことが同時に、森と共に生き、森の中で生活文化を形づくってきた先人の伝統に新しい光を当てて、地域社会の誇りと活力を復興する社会活動に結びつくことを願っています。

環境問題をはじめ、社会が直面しているあらゆる重大テーマは、いまや市民、企業、行政の実体あるパートナーシップぬぎには解決できない時代となっています。自由意思と自己責任の原則にもとづく市民活動が、社会発展に果たすべき役割と責任は、いよいよ重大になると思われます。私たちはその自覚に立って、ここに特定非営利活動法人穂の国森づくりの会を設立するものです。

目的(定款第3条より)

本会は、かつて穂の国と呼ばれた東三河の森林の公益性と豊かな伝統を確認し、流域市民、企業、行政のパートナーシップのもとで、東三河の森林保全・育成、再生を通じて、循環型社会の実現を図ることを目的とする。





20th
Anniversary



NPO(特定非営利活動法人)
穂の国森づくりの会

活動紹介

政策提言

穂の国づくりプラン

自然林再生の試み

穂の国みんなの森活動

穂の国石巻の森活動

自主的森づくり活動

(プリティフォレストクラブ)

みらい

未蕾の森づくり

田峯の森整備

森林整備ボランティア

啓発活動

森林整備体験

自然観察会

講演会・セミナー

定例交流会

機関紙フォレスト

森づくりベンダー

木育推進・木材の利用拡大

環境教育活動

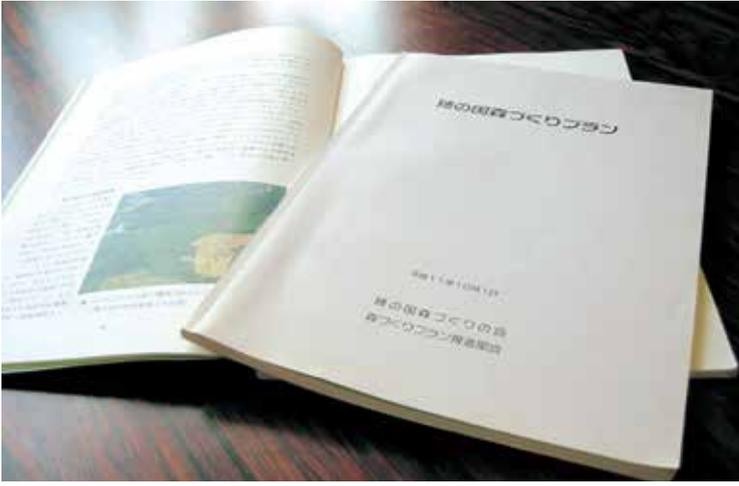
親子キャンプ

小学校訪問授業・野外体験授業

豊川市野外教育活動支援

ウッドパーク平尾

企業団体の森づくり支援



政策提言

『穂の国森づくりプラン』

森林の多様な姿と価値を確認しながら、2年間の検討を重ねて完成した、これまでの森林・林業政策に新しい提案を投げかけた提言書。

当会の活動の指針となるものです。東三河地域のみならず全国各地から今なお注目されています。

穂の国森づくりプラン (概要版) (1999年10月1日)

第1章 森の価値 森の姿

1. 森について考える

人類は森により育まれたが、森の樹上生活から地上に降りて、森の外に社会を築くことで文明に移行した。文明史は、森の利用と保全の間での葛藤に満ちている。森の利用と保全の具体的なテーマならびにバランスは、それぞれの社会で異なっている。その時代ごとの具体的な解決の方策を決定していくことこそ、私たちのつとめである。

2. 流域の森をふりかえる

日本は有数の森林国だが、つねに豊かな森に覆われていたわけではない。治山、治水の上での森の効用は古くから知られていたが、それを越える社会的圧力が加わったとき、日本の森も危機に出会った。穂の国流域の80%の人工林も歴史は浅い。明治時代に入り、技術の伝播とリーダーの出現によって少しずつ林産業が広まった。

3. 流域の森はいま

戦後復興は、はげ山に植林をすることから始まった。国土保全と林業振興が一致すると考えられた時代に、広大な人工林面積が造成された。しかし、この造林地も高度成長の木材需要を満たすことができず、60年代に外材輸入が自由化されると、市場競争力に劣る国産材はシェアを急落させた。林業不振が続く中で、人工林の一部では管理放棄が進行して、経済的価値も環境的価値も低下させ、自然環境・社会環境の両面にわたって負の圧力となっている。

4. 森と林業、神話の時代

自然、社会の両面にわたって重荷になり始めた放置林を、林業的施業や管理から切り離すことが、林業にとっても、社会全体にとっても利益になる時代がやってきている。人工造林地だというだけで林業的管理を必要とする森林と扱うことは、林業に投ずるべき資金と人材を無駄にする。荒廃林・放置林については徐々に天然状態に誘導することが必要とされ、経営林については経営体力を強化するようなサポートが必要とされている。

それによって一定割合の経営林については、外材と競争する中でも安定した操業を続けることが可能となる。

5. 新しい森づくりへ

流域の植生は、放置林に強度の間伐を加えながら自生状態に誘導する施業により、十分蘇生する可能性がある。また、そのような転換は、何人に対しても不利益をもたらさず、むしろ関係者の肩から余分な荷物を降ろす役目を果たす。

6. 多様な価値、多様な森

戦後私たちは流域の森を産業用原材料の供給地に変えたが、産業社会の成熟は、森にもっと別の、多様な価値を求め出している。循環型社会は、自然環境エネルギーを高める森林の価値、生態系の源泉になる生物多様性を確保する森林の価値、人間の体活動に有益な役を果たす森林の価値を高めることを求め、そのための活動に経済的代価を払うことをためらわない。森林は、グローバル経済の中では、CO₂の排出権取引の対象となるように新しい取引の対象となり、地域社会の中では循環型社会の需要を満た

すための基盤資源となって、新しい経済的価値を持ち始める。第一には、積極的に保全すべき天然の森、第二には、林業の森、第三には、市民のさまざまな活動や生活や文化の環境を提供する森、これらの性格を帯びた森を上手に配置することを目指す。

第2章 流域社会と水源の森

1. 流域—自然と社会

流域は単に自然地理的なエリアを示すだけの概念ではない。豊川の治水・利水の歴史は、河川に人の手が加えられ、それによって社会の利益の及ぶ範囲も変化してきたことを教えている。それが流域の社会的なエリアである。穂の国は、上流部において一部天竜水系や矢作水系を含み、下流部においては渥美半島や宝飯、蒲郡までを包摂した水利用のネットワークエリアである。

2. 流域—循環型社会のコミュニティ

戦後この流域の水をめぐる最大の関心事は、豊富とはいえぬ豊川の水量によって、いかにして増大する水需要を賄うかにあった。豊川用水や水源ダムの建設などが進められ、豊川の水利用は全国屈指の高度な形態をとるに至った。このため水の供給と受益をめぐる社会関係も高度化し、豊川水源基金に象徴されるように、流域全体で水源林の涵養、水源地域の振興をはかる体制が作られている。しかし上流山間地の地域社会は、さまざまな支援策によっても従来通りの方法でコミュニティを維持することが困難になっている。

それは林地の疲弊をもたらし、水問題に限っても、水源林の衰退、水質汚染、地盤沈下、海洋汚染などの打撃を与える。人間は水利用を高度化できても水の総量を増やすことはできない。河川を中心にした水利用と水管理は、流域の水循環システム全体の中で設計されなければならない。水源地域の保全管理を、山間の地域社会だけに委ねることは限界に達している以上、流域社会全体の手で水源を保全管理する体制に移行する必要がある。社会生活と自然環境が持続可能な循環を維持しうるような、広域的コミュニティの創出が必要とされている。

3. 流域の森づくり

新たな森づくりを水源地における森林の整備、放置林の別途管理から焦点をあててみる。80%の人工林の一部を、徐々に別の姿に変えながら、公益機能・環境機能を発揮できる森に変えていくことは、歴史上初めてのことであり、①水源林の森林のうち明らかに管理放棄されたものは、



豊川源流部（澄川）の流れ

林業経営から切り離して別の保全体系に移しかえる。②所有権の取得も含めて流域共同保有の森林を設定する。③その管理保全は流域全体で責任を負い、直接の担い手にそれを信託する。④この遂行のために行政境界を越えた流域共同の意思決定システムを構築する。

4. 緑と水のための 120分の1

（水道料金抛出资方式の提案）

私たちは、この新たな水源林整備の資金を、水道料金から一定割合で抛出する方式を提案する。現在東三河19市町村の上水道使用量は年間約 94,000千m³、収入は約120億円である。この内から1トンあたり1円を抛出すれば年間で約9,400万円（120分の1）、トン5円なら4億7,200万円（24分の1）が確保される。豊川水源基金が実施している森林整備の「水源林対策事業」は、年間 5,000万円だから、トン1円でもその2倍近い規模になる。しかも基金の事業は労働多投的な林業施業だから、これを省力型の天然誘導施業に投下すれば今とは違った局面が切り開かれる。

さらに、たとえばこの水道抛出金を水源基金に託して行うとすれば、放置林を買い取った事業者から整備施業後にこれを買って取れば、流域共同保有の水源林として蓄積される。基金の組織問題や広域行政との関係で、このほかにさまざまな方式が選択できるが、①流域一つとなった水源林整備とその森林の流域共同保有資産化②それによる森づくりの新しい事業化と人づくり③そしてそれによる水源地域の新しい活性化、という流れをつくるのが重要である。水道料金からの抛出は、自然の水供給力を高めることの対価という考えに立ち、流域全体、上下流一体で取り組むことが求められる。

第3章 穂の国の連合

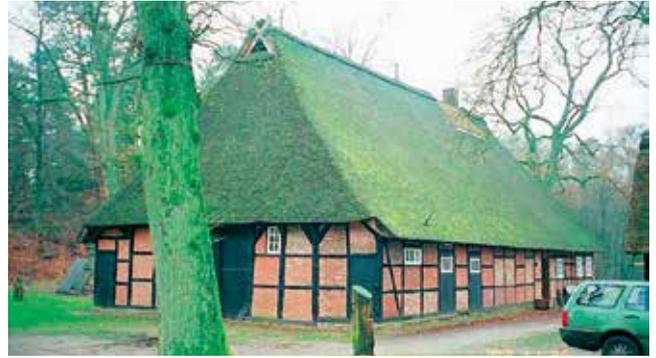
1. 「森林情報センター」

流域の森づくりのランドデザインを描き、長期的な整備保全をプロデュースする組織として「森林情報センター」を提案する。放置林と経営林の分布状況、不在所有者林の境界確定、木材生産体制の再編、非林業的施業の技術的確立など、既存の行政情報だけではカバーしきれない多くの問題が存在している。森林情報センターの組織性格としては、①流域の森全体のできるだけ正確で総合的な情報を集積している。②そのデータをもとに流域の森の総合的評価を下せる専門性を備えている。③それをもとに流域各界の求めをとりまとめてその意思を森林計画に反映させる公共性を備えている。④その計画を実施する段階での境界確認や所有移転などをサポートしうる社会的信頼性を備えている。⑤新しい森づくりを担う人材の養成能力と組織能力を備えている。⑥その全体情報を流域住民共通のものにする公開性と、事業遂行に対する社会的監督に耐えうる法的責任能力を持っている、等の要件が必要となってくる。森林組合や林業・木材業関係者、行政諸機関、住民代表や非営利団体、地域団体、学術機関などが対等の資格でパートナーシップを組む法人がその機能を担う。

2. 「広域連合」など

流域の新たな森づくりは、包括的なプログラムを必要とする。林政はもちろん、過疎対策、水源整備、河川管理、水道事業などとも密接な関連をもってくる。流域政策の諸体系との一貫性や流域住民のこの意思決定への参画も保証される必要がある。このような包括的流域政策を構想・実行するとき問題となるのは、①市町村ごとの利害の違いをどう調整するか、②県の諸施策との関連をどう整理するか、③国の権限および省庁ごとの縦割り事業との関係をどう扱うか、ということである。これらは決してたやすいことではないが、時代は間違いなくこのような方向に向かっている。

現行諸制度の中に、すでにこのような広域連携に対応する法整備が準備されている。特定の行政サービスを広域自治体が共同で担う「一部事務組合」や、関係自治体が所掌事務、規約、組織などを決め、広域の独自の議決・執行機関を設置する「広域連合」などがそれである。とくに広域連合は、国や県の権限の委譲を受けたり、共通政策に反する構成体に勧告を行うなどの広範な権限をもつことができ、かつ住民の直接請求や選挙やリコールが保証される点で分権と自治の新しいスタイルを備えている。これまでのところ、環境、森林、水源、河川、水を所掌事務にした広域



森林情報センターの参考になるドイツ北部のシュネフェルディングンにある森林体験施設「エールホルンNO.1」

連合が成立した例はないが、穂の国の歴史的背景などからも、流域の森の連合が望まれる。

3. 穂の国「森林祭」と「LETS 穂の国」

広域にわたる森づくりを実施するという事は、ある意味では、流域住民全体が「森の住民」となることである。域内市民が、「森の住民」でもあれば「海の住民」でもあり、「町の住民」でもあれば「田舎の住民」でもある、そのような生活のあり方が希求される。そう欲したときには誰でもが「森の住民」になれるような環境が、流域の森に整備されることを目指したい。そのための多様なフィールドを作り出すことにとりかかりたい。

穂の国には、原生林があり、人手で育成された美林があり、信仰の森があり、観光の森があり、民俗芸能の森があり、山の文化を残す森がある。このような山と森をステージにした豊かな生活シーンを流域全体の共有物にし、また日本と世界に発信してその人々をも「森の住民」として招くことを可能にしたい。

その第一幕として、穂の国森林祭（仮称）を2000年代初頭に開催することを提案する。また上記の趣旨からこれを一過性のイベントに終わらずに、循環型流域社会を構築するためのコミュニティ・ネットワークづくりを試みる。そのツールとして LETS＝地域交換取引制度（通称エコマネー）を研究し、森林祭とリンクさせる構想に取り組みたい。

4. 穂の国森づくりの会

NPO法の成立にみられるように、非営利・非政府の市民ボランティア活動のセクターが、社会の責任ある構成部分になる時代を迎えている。当会もNPO法人化を含め自らの活動基盤を強化して、その一翼を担っていきたい。

産業価値を低下させて放置された森林、行政支援をもってしても管理の行き届かぬ森林、私たちはここに市民的価値による再生の光をあて、流域の誇りうる資産へとかえる諸方策を、「穂の国森づくりプラン」として提言する。

穂の国森づくりプランで提言した 2つのプランが実現しました!!



穂の国森林祭2005 (2003年~2005年)

「もう一つの日本~森から始まる地域の自立」をテーマに東三河の上下流域が一体となった「流域循環型社会の構築」を目指し、森にかかわる様々な討論、交流、体験などを実施、総事業数100以上、延べ10万人の人々が参加した愛・地球博地域連携プロジェクト事業最大級の事業となりました。



森林整備のための水道使用料1トン1円拠出方式 (2005年~)

上下流の8市町村が一体となって、水道料金1トンにつき1円の資金を森林整備のために拠出する方式。

2005年から公益財団法人豊川水源基金により「水源林保全流域協働事業」として実現しました。



『穂の国森づくりプラン』の更なる発展に向けて

東三河流域フォーラム (2006年～2008年)

穂の国森林祭2005実行員会の理念を継続、発展させる形で「東三河流域フォーラム」が発足。当会は、事業の企画の中心的な役割を担いました。

①設立総会・記念講演会の開催

『山岳信仰と日本人～森・里・海の統合テクノロジー』



②公開シンポジウムの開催

『地域の特性を活かした循環型社会の構築』

③東三河の良さ、素晴らしさを様々な角度から検証し、そこに住まう人々がいきいきと暮らす“新しいライフスタイル”を考える「流域と暮らしシリーズ全3回」を開催。

第1回 『食と暮らし』（公開シンポジウム）

第2回 『緑と暮らし』（公開セミナー）

第3回 『水と暮らし』（公開シンポジウム）



④水循環再生フォーラムを愛知県から受託

2007年 東三河水循環再生フォーラム (全6回講座)

2008年 東三河水循環再生フォーラム (実践編)



「森林情報センター構想」に関する提言書

2013年6月21日

特定非営利活動法人穂の国森づくりの会
森林情報センター検討部会

森林情報センターの検討 (2009年～2013年)

穂の国森づくりプランにおける提言の三本柱の一つ「森林情報センター構想」の実現に向けて新たな提言書を取りまとめました。(次ページ概要版参照)

「森林情報センター構想」に関する提言書（概要版）

（2013年6月21日）

第1章 森林情報センターの役割

東三河地域は、豊川の流れを中心に歴史的にも文化的にも相互に深い関わりを持った地域であり、これまでも広域的な課題に対して地域が一体となって取り組んできた経緯がある。

森林情報センターは、東三河エリアにおける森林情報の一元的な管理や森林資源の保全・有効活用の促進等を通じ、活力に満ちた流域循環型社会の構築を促進する役割を果たすものである。

経済的な価値を持つ地域における様々な資源は、単体としてよりうまく組み合わせられることにより相乗効果を発揮する。様々な資源とは、山林資源、食材、温泉、宿泊施設、伝統芸能、コンベンション機能、情報発信機能などである。山林資源は、水源を涵養したり、木材やバイオマス資源を生み出したりするだけでなく、重要な観光資源でもある。

森林情報センターは、これらの資源を結びつけ、有機的に組み合わせることにより、山間部だけでなく流域全体に価値を増幅しながら広げていく役割を担う。そしてそれにより、地域自らの手で地域づくりを進める「自立力」の向上と、将来にわたって地域の暮らしと地域発展を支える「地域力」の強化にも貢献していくことを目指すものである。

第2章 森林情報センターの設置の提言

森林情報センターは、東三河の森林の健全性を確保し次世代へ継承していくためのコーディネート機関として、以下のような役割を担うものとする。

①データベース

適切かつ永続的に森林管理を行うための情報を蓄積し、森林整備や資源管理等に活用するもの。

- 森林施業情報（路網を含む）の集約管理
- 境界情報の集約管理
- 木材資源量や利用状況の把握
- 政策提言（シンクタンク）

②アセスメント

森林の整備、利用状況を継続的に監視し、評価、公表を通じて利用者へ必要な情報を提供するもの。

- 森林整備事業の有効性と効率性の評価、認証
- 森林の多面的機能の評価、認証
- 森林の適正利用の促進（公益的に支障をきたす所有や事業の抑止）

③森林資源の利用促進

持続的な林業経営のため、東三河産の木材等の一層の流通

を促進する。

- 東三河産の木材認証
- 森林整備に意欲的な個人、企業団体への情報支援
- 燃料利用など新たな用途開発

④人材育成

持続的な森林管理のため、担い手の確保と育成を推進する。

- 森林整備の担い手育成
- 森林環境教育の担い手育成
- 森林評価を行う専門家の育成

⑤交流促進

森林の多面的な利用を促進するため、市民と森林林業関係者との交流を促進する。

- 各種相談窓口
- 市民団体の活動支援
- 森林観光の情報発信（ビジターセンター等）

第3章 組織形態

森林情報センターについては、一部事業収入を伴うものもあるが、基本的には公益目的であって収益性の低い事業が大部分である。このため、組織体制の面では、流域圏の行政による積極的な関与が欠かせない。

「森林情報センター」は、私たち民間の立場からは、柔軟性があり機動的に対応できる組織とすることが大切だと考える。しかし、具体的な取組みの中では、利害調整などにおいて高い公共性を求められ、また、法律に基づく森林に関する各種情報の取り扱いなど、全て民間の責任で実施することが困難な状況も想定される。

そのため、「森林情報センター」の組織体制としては、設置主体は東三河広域連合等の流域の地方公共団体、運営主体は民間できれば非営利法人という形が望ましいと考える。

第4章 運営財源

森林情報センター事業は、流域圏の重要な自然・観光・経済・教育資産である森林機能を高めていくものであり、その果実は流域全体に及びそれを享受するものは、流域に暮らす住民であり経済活動を行う企業である。そうしたことを踏まえ、「森林情報センター」の財源については、設置及び維持管理に関する部分は東三河広域連合等の流域の地方公共団体が、その中での具体的な事業運営に関する部分は民間の非営利法人が、それぞれ分担して調達する形がとれたらよいと考える。

穂の国みんなの森

2001年



設楽町にある段戸裏谷原生林に隣接する国有林内のスギ・ヒノキ林皆伐跡地で、原生林と同じような樹種構成の森を早期に再生すること目標に2001年から活動しています。

下流域の小学生や漁業関係者など市民に広く開放した活動方法や森づくりの手法が高く評価され「林野庁賞」を受賞。現在も樹木の生長調査や除伐などを継続しています。



2017年



自然林再生の試み

穂の国石巻の森

2011年



2009年の台風18号により風倒木災害が発生した跡地に、宮脇昭横浜国立大学名誉教授の指導のもと、常緑広葉樹を中心とした森づくりに2011年から取り組んでいます。

2011年の植樹祭では、林野庁長官を始め、全国か約500名が参加。

現在も地元の企業や団体、大学生などに参加いただきながら、樹木の生長調査や下刈り、除伐などを継続中です。



左から宮脇昭横浜国立大学名誉教授、城土裕林野庁中部森林管理局長(当時)、皆川芳嗣林野庁長官(当時)

2017年





左、上写真 「未蕾(みらい)の森」
プリティフォレストクラブが最初に取り組んだ広葉樹の森づくりです。



自主的森づくり活動 プリティフォレストクラブ(1999年~)

個人会員の有志による森づくり活動。週2回ペースで活動しています。
企業団体の森づくりの作業指導も行っています。

これまでの主な活動場所

- 未蕾(みらい)の森(北設楽郡東栄町)
- 田峯の森(北設楽郡設楽町)
- 鳳来県有林(新城市「愛知県民の森」)
- 清崎県有林(北設楽郡設楽町)
- 新城市黄柳野地区の私有林
- 新城市庭野地区の私有林
- 新城市大草地区の私有林
- 新城市出沢地区の私有林



水源の森を守る活動が継続的に行われていることが評価され、第1回「水源の森百選」保全・活動コンクールで、「林野庁長官賞」を受賞しました。

ふるさとの夢を創る

Tamura

株式会社田村組

〒441-1342 愛知県新城市石田字南畑84-2

TEL 0536-22-1651 FAX 0536-23-5679

<http://www.tamuragumi.net>

啓 発 活 動

森
に
出
向
き
、
森
で
学
ぶ



森林整備体験(1997年～)

水源地域の森へ出かけ、林業に携わる皆さんとのふれあいの中で、森林整備を体験するイベント。

設立時から現在も継続して行われ、20年間で延べ約4000名が参加。



自然観察会(1997年～)

東三河地域の森林を中心に、三河生物同好会をはじめとする地域の先生方に詳しく案内いただく自然観察会を年2～3回程度開催しています。

設立時から現在も継続して行われ、20年間で延べ約2500名が参加。



穂の国の自然と文化を学び、森を知る



講演会・セミナー (1997年～)

森林をテーマに著名な方々を講師に招き講演会を開催しています。

また、東三河地域の森林にかかわる自然や文化を学ぶセミナーを20年間で約100以上開催しています。

【過去の主な講演会講師】※講演会開催順

C・W・ニコル 氏(ナチュラリスト、小説家)

畠山重篤 氏(NPO法人森は海の恋人代表)

梅原 猛 氏(哲学者、国際日本文化研究センター名誉教授)

柳生 博 氏(俳優)

宮脇 昭 氏(横浜国立大学名誉教授)



定例交流会 (2012年～)

東三河地域の地元料理や地酒などを学び、楽しみながら、会員や関係者がざっくばらんに交流を図る会です。



森づくりの情報発信



機関紙フォレスト (1997年～)

会の活動や東三河地域の自然や文化を掲載し、会員内外に広く情報発信をしています。
(2018年4月現在でVol.101まで発行)



森づくりベンダー (2009年～)

東三河地域の水源森保全の大切さを啓発するようにラッピングされた自動販売機。この自動販売機の売り上げの一部は会に寄附されます。

森づくりベンダー設置協力企業

- 株式会社愛三製作所
- 株式会社アラキスタジオ
- 一宮商工会
- 株式会社大木家
- 鹿島建設株式会社 中部支店
- ガステックサービス株式会社
- 株式会社クライム(オートボックス豊橋店)
- 神野建設株式会社
- 株式会社菅沼タイル店
- 株式会社すぎうら保険設計
- 株式会社中部
- トヨタネ株式会社
- 株式会社トヨタック
- 豊橋木材商工協同組合
- 日本機設工業株式会社
- 有限会社ハートヘルスファーム
- ひまわり農業協同組合
- 株式会社ホワイト商会
- 武蔵精密工業株式会社
- カフェPinos
- ヤマサちくわ株式会社
- 山本瓦工業株式会社

(五十音順 2018年5月現在)

木づかいの情報発信



木育推進・木材の利用拡大 (2012年～)

幼少期から木に触れ合い、木の良さを知ってもらうために地域で行われるイベントなどで、木工教室を開催しています。



森林整備(間伐)後に、森林に放置された丸太(間伐材)を有効に活用するため、薪利用など様々活用方法を検討しています。





夏休み親子キャンプ (1997~2001年)

東三河地域の森林を舞台に、親子で自然に触れながら、森の楽しさ、大切さを体感できるキャンプを開催しました。



森林環境教育活動

森の恵みを子どもたちに伝える

小学校への訪問授業 (2000年~)
野外体験授業 (2000年~2008年)

東三河地域の小学5年生を対象に、森林の多面的機能や、森林整備の大切さなどについて、小学校に出向いて授業をする訪問授業と森林整備体験や自然観察を、森林を舞台として体験してもらう野外体験授業を地元の行政機関、木材団体と連携して実施しています。

これまで、1万人以上子どもたちが受講。





段戸裏谷原生林

ブナ・ミズナラなどの落葉広葉樹とモミ・ツガの常緑針葉樹の高木を中心に構成されている学術的にも貴重な太平洋型ブナの原生林。



豊川市小学校野外活動支援 (2009年～)

豊川市内の小学5年生は、設楽町段戸裏谷地区にある豊川市野外教育センター「きららの里」で野外教育活動を行っています。その一環として「きららの里」に隣接する「段戸裏谷原生林」の森林観察の案内を、他団体と連携して支援しています。

訪問授業や野外教育活動支援などの取り組みが高く評価され、平成26年度子どもと家族・若者応援団表彰(子どもと・若者育成支援部門)で「内閣府特命担当大臣賞」を受賞しました。





ウッドパーク平尾(2014年～)

豊川市内の放置された里山を、キャンプや木登りなどのアウトドア体験や森林環境学習ができるように整備しています。

森に親しむ玄関口として親子で気軽に森遊びができる里山を目指しています。

東西三河地区を中心に
監視カメラ/通信機機/ネットワークシステム/音響機器/ドキュメント機器
販売・設計・施工・メンテナンスまで



日昇テレコム株式会社

Nissho Telecom CO.,LTD.

OA機器・音響・カメラ等、何でも弊社にお任せください、お問い合わせは下記まで

〒440-0081 愛知県豊橋市大村町字大ノ前101番地 TEL:0532-56-5666



企業団体の森づくり支援

企業団体の社会貢献活動を支える(2008年～)

企業や団体が社会貢献活動などで取り組む『森林整備』『環境教育』『東三河産木材の活用』に対して幅広く協力しています。

森林整備の作業指導や事前の準備、森林環境教育の企画運営、東三河産材を使った木工教室の開催など、年間約40回の取り組みを応援しています。

これまで協力させていただいた主な企業・団体

- 愛知県信用農業協同組合連合会
- 愛知県労働者福祉協議会 東三河支部
- イノチオホールディングス株式会社
- 株式会社NTTビジネスアソシエ西日本
- 株式会社大木家
- 鹿島建設株式会社 中部支店
- ガステックサービス株式会社
- コニカミノルタ労働組合
- 三遠機材株式会社
- セキスイハイム中部株式会社
- 高砂熱学工業株式会社 名古屋支店
- 中部セキスイハイム工業株式会社
- 中部電力株式会社 岡崎支店
- 株式会社デンソー
- 東亜合成株式会社 名古屋工場
- トヨタネ株式会社
- 豊橋農業協同組合
- 豊橋鉄道株式会社
- 日清オイリオグループ株式会社 名古屋工場
- 株式会社阪急阪神ホールディングス
- 東三河広域連合
- ひまわり農業協同組合
- 武蔵精密工業株式会社
- ヤマサちくわ株式会社

(五十音順、2018年5月現在まで)

20年の歩み(年表) 1997年~2006年

※ 青字は世間の動き



1997年(平成9年)

穂の国森づくりの会設立(任意団体)
 設立記念フォーラム
 森林整備体験、自然観察会、機関紙フォレスト発行、幹事会勉強会を開始

第3回気候変動枠組条約締約国会議(COP3)で京都議定書採択



1998年(平成10年)

シンポジウム「これからの森づくり~流域で考える森林ビジョン」を開催
 プリティフォレストクラブ発足 『末蕾(みらい)の森』整備を開始
 幹事会勉強会を「例会」に名称変更

特定非営利活動促進法施行
 地球温暖化対策促進法施行
 国有林野事業改革
 奥三河フォレストピア構想発表



1999年(平成11年)

『穂の国森づくりプラン』を発表
 東栄町菌目地区の花祭り見学会を開始
 プリティフォレストクラブ発足『田峯の森』整備を開始
 イシグログループ(現イノチオホールディングス)の「おんがえしの森づくり」に協力



2000年(平成12年)

穂の国森づくりの会 特定非営利活動法人(NPO)化
 森林祭構想検討委員会発足
 小学校への訪問授業・野外体験授業の試行を豊橋市内で開始

「総合的な学習の時間」試行
 「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律(グリーン購入法)」が制定される



2001年(平成13年)

穂の国みんなの森活動を段戸国有林内で開始(林野庁ふれあいの森制度)
 自然観察会を三河生物同好会との共催で開始

蒲郡市が水源林保全のため水道使用料1トン/円の積み立てを開始
 林業基本法が改定され、「森林・林業基本法」が施行



2002年（平成14年）

小学校への訪問授業・野外体験授業を東三河全域に拡大（総合的な学習の時間全面実施）
 環境学習教室を愛知県から受託、赤岩山緑地整備を豊橋市から受託
 穂の国みんなの森での活動で「林野庁長官賞」を受賞
 穂の国森林祭2005実行委員会発足
 豊橋市総代会（自治会）の「豊橋市民の森」（設楽町大野山）の整備開始
 蒲都市漁協青年部連絡協議会が穂の国みんなの森で「三河湾漁民の森づくり活動」を開始

持続可能な開発に関する世界首脳会議（ヨハネスブルグ・サミット）開催



2003年（平成15年）

『国際森林環境フォーラム2003』を開催（穂の国森林祭2005事業）
 森と水を考える地域づくりセミナーを愛知県から受託

経済同友会が「21世紀グリーンプラン」を発表
 第27回全国育樹祭が愛知県で開催
 『緑の循環』認証会議（SGEC）が発足



2004年（平成16年）

『国際森林環境フォーラム2004』を開催（穂の国森林祭2005事業）
 シンポジウム『地域の森と生活環境を考える』を開催
 「例会」を「穂の国森のセミナー」に名称変更

高知県で「森林環境税」始まる



2005年（平成17年）

『エンジン01文化戦略会議オープンカレッジin穂の国』を開催（穂の国森林祭2005事業）
 『国際森林環境フォーラム2005』を開催（穂の国森林祭2005事業）
 『森林と市民を結ぶ全国の集いinあいち』を開催
 『環境に優しい地域材活用セミナー』を開催

愛・地球博開催
 「水源林保全流域協働事業」（水源林保全のための水道使用料1トン1円拋出方式）が、東三河全市町村で始まる



2006年（平成18年）

穂の国森林祭2005実行委員会の後継として「東三河流域フォーラム」が発足
 公開シンポジウム『地域の特性を活かした循環型社会の構築』を開催
 （東三河流域フォーラム事業）

20年の歩み(年表) 2007年~2016年

※ 青字は世間の動き



2007年(平成19年)

公開シンポジウム『流域と暮らし』シリーズ 第1回「食と暮らし」を開催
(東三河流域フォーラム事業)
東三河水循環再生フォーラムを愛知県から受託(東三河流域フォーラム事業)



2008年(平成20年)

企業団体の森づくり支援を強化
野外体験授業を終了し、豊川市野外教育活動支援を開始
公開セミナー『流域と暮らし』シリーズ 第2回「緑と暮らし」を開催
(東三河流域フォーラム事業)
公開シンポジウム『流域と暮らし』シリーズ 第3回「水と暮らし」を開催
(東三河流域フォーラム事業)
東三河生物多様性保全事業(東三河自然環境ネット発足)



2009年(平成21年)

水源の森百選整備保全活動コンクールで「林野庁長官賞」を受賞
森づくりプラン推進部会を「森林情報センター検討部会」に変更
森づくりベンダー(飲料自動販売機)の設置を開始
「穂の国森のセミナー」を「穂の国豊かな暮らしのセミナー」に名称変更
嵩山山地公園適正管理業務を豊橋市から受託

あいち森と緑づくり事業(あいち森と緑づくり税)が始まる
林野庁「森林・林業再生プラン」公表



2010年(平成22年)

「親子で学ぶ東三河の自然と生物多様性事業」を愛知県から受託
「定例交流会」を開始
嵩山山地公園で春のシイタケ菌打ち体験を開始

第10回生物多様性条約締約国会議(COP10)が名古屋市で開催
愛知目標が採択
公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律施行
天竜林材業振興協議会(浜松市)がFSC認証を取得



2011年(平成23年)

穂の国石巻の森活動を豊橋国有林内で開始(林野庁ふれあいの森制度による)
穂の国いのちの森づくり植樹祭開催(毎日新聞共催)
「地域の魅力~生物多様性セミナー」を愛知県から受託
穂の国グリーンウォーク「ECOカツShinshiro」を開催

2011国際森林年
林野庁「森林・林業再生プラン」の具体的施策始まる
東日本大震災



2012年 (平成24年)

穂の国いのちの森づくり植樹祭2012を開催(毎日新聞共催)
「東三河地域の魅力 生物多様性セミナー」を愛知県から受託
木育推進事業を開始

東三河県庁が創設
再生可能エネルギーの固定価格買取制度 (FIT)が始まる



2013年 (平成25年)

森林情報センター構想に関する提言書を発表
(仮称)平尾の森整備活動を開始
「東三河地域の魅力 生物多様性セミナー」を愛知県から受託

国有林野事業が一般会計化



2014年 (平成26年)

平成26年度子どもと家族・若者応援団表彰(子ども・若者育成支援部門)で
「内閣府特命担当大臣賞」を受賞
森林ESDフォーラム開催業務を(公社)国土緑化推進機構から受託
東三河生態系ネットワーク協議会、新城設楽生態系ネットワークに参画

ESDユネスコ国際会議が名古屋市で開催
水循環再生法施行



2015年 (平成27年)

豊川市野外教育活動支援の主体が林野庁愛知森林管理事務所から当会に移行

国連持続可能な開発サミットで「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択
(17の目標と169のターゲットからなる「持続可能な開発目標(SDGs)」を掲げる)
第21回気候変動枠組条約締約国会議(COP21)で「パリ協定」が採択



2016年 (平成28年)

創立20年目を迎える(創立20周年記念事業を検討)
(仮称)平尾の森を「ウッドパーク平尾」に改称
株式会社WABISABIと連携して、森林空間を活用した新事業を検討
「名豊ビル新館事務局」ラストイヤー

国民の祝日「山の日(8月11日)」が始まる

創立20周年記念事業

「穂の国の森」 これまでとこれから

数々の賞を受賞した、長編ドキュメンタリー映画を上映します!! /

スケジュール

- 14:30 開会
穂の国森づくりの会20年の活動DVD上映
- 15:00 第1部 / 映画「うみやまあひだ ~伊勢神宮の森から響くメッセージ~」上映会
- 16:45 第2部 / パネルディスカッション

【テーマ】「森林の恵みを活かした未来ある地域づくり」

【コーディネーター】

NPO法人穂の国森づくり会理事長 神野吾郎

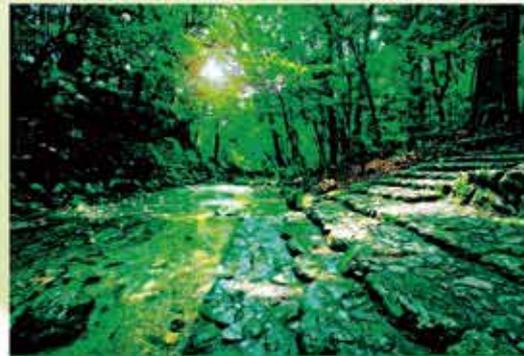
【パネリスト】

瀧澤 信氏【うみやまあひだプロデューサー】
田實 健一氏【(同)新城キックボクシング代表】
野中 葵氏【2017年度ミス日本みどりの女神】
宮本 憲氏【愛知県立田口高等学校農場長】

18:15 閉会

※第2部パネルディスカッションは(公財)豊川水源基金「水源林保全流域協働事業」の助成を受けています。

うみやまあひだ ~伊勢神宮の森から響くメッセージ~



イントロダクション【うみやまあひだホームページより】

監督 / 撮影監督 宮澤正明

2015年マドリード国際映画祭-外国語ドキュメンタリー部門最優秀作品賞他二賞、世界三大ドキュメンタリー映画祭シェフィールド国際ドキュメンタリー映画祭2015年環境賞ノミネート

1000年ずっと、森と生きてきた日本人。
1000年後に、あなたは何を残しますか？

©2014 Masaaki Miyozawa / Jirpu all right reserved ©2014 Sustainable Investor

開催日 平成 30年 2月6日(火)

会場 穂の国とよはし芸術劇場PLAT
「アールスペース」(豊橋市西小田原町123番地)

定員 第1部・第2部ともに 先着 150名

参加費 第1部・第2部ともに 無料



お申込み
お問い合わせ先



NPO法人穂の国森づくりの会事務局

〒440-0888 豊橋市駅前大通三丁目53番地 太陽生命豊橋ビル2階

Tel.0532-55-5272 Fax.0532-55-5276

E-mail honokuni@honokuni.org ホームページ <http://www.honokuni.org/>

パネルディスカッション

『森林の恵みを活かした未来ある地域づくり』

【コーディネーター】

神野吾郎 (特定非営利活動法人穂の国森づくり会理事長)

【パネリスト】

瀧澤 信氏 (うみやまあひだプロデューサー)

成蹊大学経済学部経済学科卒業。1996年明治生命保険相互会社(現・明治安田生命保険相互会社)入社。以後、株式会社グッドバンカー(日本初のエコ・ファンド専門投資顧問)、野村証券株式会社、野村プリンシパル・ファイナンス株式会社を経て、2006年株式会社サステイナブル・インベスター設立、代表取締役就任。2016年複眼経済観測所・取締役就任。琉球大学・金融人材育成講座「環境と金融」講師(2006年度)。京都大学大学院・経済学研究科・自然資本経営論講座ディレクター(2014-16年度)。神楽サロン・ディレクター。複眼経済塾・ファシリテーター。一般社団法人ヒューマノミクス実行委員会・理事。ものづくりの心塾・師範代。

田實健一氏 (合同会社新城キッコリーズ代表社員)

愛知県指導林家。新城市井代在住。1976年生まれ41歳。とある大学の工学部航空工学科卒。大学卒業後、オートバイでオーストラリアや日本各地を旅して周る。その旅の途中、新潟県中越地震に遭遇し、壮絶な自然災害の恐ろしさを目の当たりにし、人間社会を守るためにも災害に強い森林や自然環境を造る事に強い関心を持ち「林業」の世界に足を踏み入れる。現在林業歴13年。はたして災害に強い森林を造る事ができているのだろうか… 自分の思いを伝えるために、森林環境学習会や森林林業体験会なども行っている。高齢化が進み人材育成にも悩まされる林業界。少しでも関心を持ってもらえるよう、現場を休んででも今日参加した。

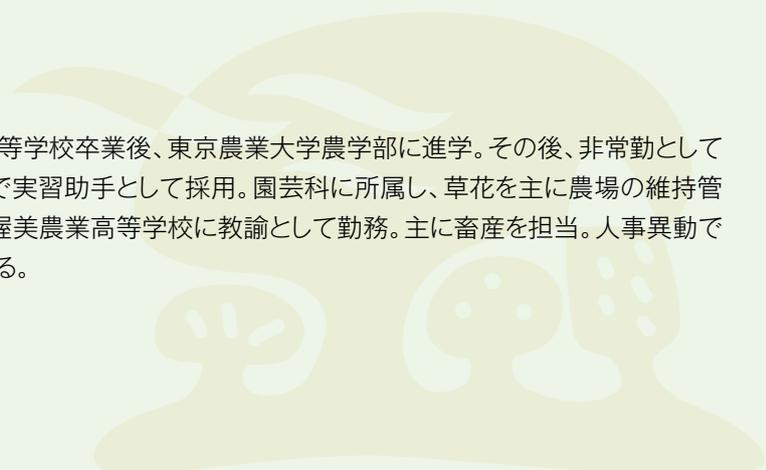
野中 葵氏 (2017ミス日本みどりの女神)

福島県生まれ、千葉県育ち。未来に繋がる豊かな緑を守り育ててきた取り組みや、生活に根ざした日本の木の文化の大切さと素晴らしさを伝え、みどりと木への親しみを広げる役割を担う三代目の「ミス日本みどりの女神」。また、農林水産省「みどりの広報大使」、「地球生き物応援団・グリーンウェイブ大使」、「CLT広報大使」に就任。幼少時代には緑の募金運動に携わったこともあり、林業機械や森林セラピーなど、森林づくりや森林とのふれあいに関心がある。伐木等機械の運転の業務及び走行集材機械の運転技能や特別教育・安全衛生教育「チェンソー」の受講も修了。将来は田舎暮らしに憧れている。

宮本 憲氏 (愛知県立田口高等学校農場長)

1973年生まれの44歳。新城市平井在住。愛知県立田口高等学校卒業後、東京農業大学農学部に進学。その後、非常勤として愛知県立田口高等学校に勤務し、愛知県立新城高等学校で実習助手として採用。園芸科に所属し、草花を主に農場の維持管理・授業を行う。その後、教員採用試験に合格し、愛知県立渥美農業高等学校に教諭として勤務。主に畜産を担当。人事異動で愛知県立田口高等学校に勤務となり、今年で10年目を迎える。

※職名は、パネルディスカッション開催当時



パネルディスカッション要約

田實 新城市にある合同会社新城キッコリーの代表社員、田實健一です。日本各地をバイクで旅して新潟に行ったときに新潟県中越地震に遭い、自然災害のすごさを目の当たりにしました。そして、災害に強い森づくりをしたいと思い、林業の道を選びました。また、新城市の小学校5年生を対象に、出前で森林環境学習会を開き、いろいろな体験をしてもらっています。

野中 2017ミス日本みどりの女神として1年間活動させていただきました野中葵です。日本各地を回って、森林や林業世界、木材産業世界の価値や魅力をPRしてきました。これからはモデルとして、女性の視点で木の生み出す可能性を発信していきたいと考えています。

宮本 田口高等学校農場長の宮本憲です。本校では林業科という名前を絶対に残し、林業の魅力を伝えられたらよいと思いつつながら生徒と接しています。

瀧澤 「うみやまあひだ」プロデューサーの瀧澤です。最近、お金の流れがおかしいと感じています。例えば、田舎では田畑が食べ物を作り、森が水を作り、空気を作ってくれます。非常に価値が高いです。ところが、お金は都会にばかり流れています。この流れを変えていきたいと思い、2006年にサステナブル・インベスターという会社をつくりました。そこでは日本で初めての森林ファンドを作って運用し、都会に滞留しているお金を山に向ける試みを行いました。

また、持続可能な社会に向けては、いろいろな難しい課題があります。10年前に伊勢神宮に行ったときに、伊勢神宮の中にコンパクトに千数百年もずっと長く、その答えを示し続けてくれていることに気づきました。何とかこれをみんなで共有する方法ないかなということでもずっと悩んでいた中で、たまたま映画はどうだということになって、「うみやまあひだ」が生まれました。

田實 私が林業の仕事を始めたとき、住む場所がなくて苦労しました。1ターン等で良い人材を集めるためには、空き家対策や移住者向けの住宅整備が必要だと感じています。最初の就職先は1年でベテランの皆さまが引退されてしまい、店を閉じてしまいました。私は新城市の森林組合で働くことができましたが、その際、一人親方にならざるを得ませんでした。一人親方は自営業者です。チェーンソーや草刈り機等、全て自分で買



わなければなりません。資格も取らなければなりませんし、山に入るための車も必要です。非常に出費がかさみます。人材育成が進んでいない状態でした。

その後、森林境界の明確化の作業に入りました。山主の皆さまは高齢化しており、確認のため、時には山主さんをおぶって現地に行くこともありました。ところが、図面が現地と全く合わなかったり、風景が山主さんの記憶と異なっていたりして分からないこともありました。また、当時は故意に他人の土地に入った所に境の印として石を積むなどしていた人もおり、それが余計に混乱を招いていました。中にはきちんと管理していた人もいましたので、皆さまの意見を集約して承諾を得ることにより、徐々に明確化させていきました。その際、一番大切だと思った技術が自然観察力です。木々の成長の差や手入れの跡など、何かしらのヒントを見つけ出すことが境界の明確化に大変寄与すると思っています。

子どもたちにも自然観察力の大切さを感じてもらいたいと思い、環境学習や林業の体験などをさせていました。その中で、林業の花形は測量調査ではなく、丸太を生産することだと考えを新たにし、3年前、林業を総合的に施業する合同会社新城キッコリーを立ち上げました。しかし、なかなか人が定着しません。有能な人材を確保するためには、移住者が住める場所を用意してほしいです。それから、安定的な仕事が欲しいです。林業の営業とは事業者への声掛けではなく、自ら丸太を売り込むことだと思っています。そのためには、施業ができるフィールドの確保が絶対に必要です。今は旧鳳来町の井代という場所に住んでいますが、その山主さんにお声掛けて集約化し、森林計画を立てて安定的に仕事と丸太の材を供給できるようにしていきたいと思っています。人材の確保としては、自然が好きで林業や森を何とかしていきたいという強い思いを持った人材が集まってきてほしいです。新城キッコリーが、やりがいのある面白い林業会社であると言えるように模索しています。

宮本 田口高等学校では2年生から森林学習コースがあり、演習林も所有しています。そこでは一通りの作業を体験して

学ばせませす。間伐や枝打ちだけではなく、山の文化として炭焼きなども体験させています。また、学校の中には圃場があり、挿し木の技術実習やシイタケの栽培、ベンチの製作なども行っています。森林という大きなくくりでは捨てられてしまう枝や葉を新しいものに使えないか探る授業も行っています。他には、企業と連携して、GPSの運用やフォークリフトの運転を教えています。愛知県の林務課などとも連携しながら実体験が多くできるようにしています。体験をしなければ分からないことが多いです。危ないことも多いですが、安全に留意するために先立って説明をして、危険な操作をしないように気を付けています。

田口高校では生徒の斬新なアイデアを大切にしようとしています。例えば、ハナノキからメープルシロップを採る試みを始めています。現実にはごくわずかししか採れませんが、世界初の試みですので、愛知県の森林林業技術センターと一緒に研究を行っています。また、おがくずを種まき用の土に混ぜてみたところ、50%混合させたものの発芽率が一番良くなりました。これは竹をそのまま底面給水のシクラメンの鉢として使用したものです。これは丸太のコンロです。ヒノキの丸太を十字に切って溝を作り、下から火を付けて燃やします。この上に鍋を置いておいても、周りの皮の部分が残りますからコンロとして使えます。実際にいろいろな所で使われています。これは耐震家具です。ボルトとナットには間伐材を使いました。こちらは枝と葉を煮立てて抽出液を採ったものです。これはアロマにも使えますが、他の用途についても模索しています。シイタケの栽培で、乾燥のために太陽光を利用する研究も行っています。また、1日で焼ける炭窯の作成も行っています。

野中 私は静岡森林管理署の一日署長として、山の保全活動の呼び掛けを行い、富士山の山頂まで登りました。下山した後は、麓での農泊自然体験をしてきました。このように里山を体験した結果、魅力が詰まっていて楽しめる場所が地方にたくさんあるという印象を受けました。皆さまにも言葉だけではなく、体験して楽しいと感じてもらわないと、心に響かないのではないかと思います。また、地元を盛り上げようとしている現場のかたがたの一生懸命な姿を発信していきたいと思いました。

これは福島県の原木市場、製材工場へ行ったときの様子です。福島県は東日本大震災の風評被害の影響で大変な思いをしています。震災から7年たった今でも一本一本の放射線を測っています。安全は数字で示せませんが、目に見えない国民の心の信頼を取り戻すために、この先もしっかり測っていくそうです。それは大変なことだと感じましたが、良くいえば世界一安全な木を私たちの暮らしに届けてくれていると思います。どこの地方に行っても、志の高い方が集まって、熱い思い

を持って取り組んでいる姿には本当に感心しました。実際に現場に行ってみることが多くありました。こちらはウッドデザイン賞を受賞した新潟県の観光列車です。車内には新潟県の木をふんだんに使っており、木の香りとぬくもりで非常に癒やされる空間となっています。海外からのお客さまの予約が殺到していると聞き、日本の木をPRできる良いきっかけになると思っています。

私は特に若い世代や女性に、おしゃれでかわいいと思えるようなものをPRしていけば、木に関心を持ってもらうことも増えると思います。そうしたものがたくさん生まれれば、海外の人にも日本の自然の魅力を伝えられると思います。例えば木のバッグやヒノキのアロマオイル、木糸ドレスなどです。それらを生活に取り入れれば、日本の森に抱かれた気持ちになって、日本の森に寄り添える時間ができると思います。また、新潟県の苗場の森で行われているフジロックは、音楽と自然のコラボレーションが素晴らしく、世界中から人が集まるイベントとなっています。このような場所をSNS等でどんどん広めていけば、若い人たちが行ってみたいと思い、つながっていくのではないかと思います。

瀧澤 皆さまの財布に入っているお金は誰のものか考えてみてください。これには確たる統計があって、日本銀行の資金循環統計というものがあります。これには自己資本という欄がありますが、それは家計にしかありません。従って、お金の所有者は各ご家庭以外にはありません。お金は労働の対価としてのみもらえます。国が持っているお金は皆さまの税金です。銀行預金も預かり金です。国も日本銀行も財務省もお金の所有者ではありません。

日本では統計上7割近いお金が銀行預金となっています。この預けたお金は、その瞬間から運用されています。このお金の3割ぐらいいは、巡り巡って世界の裏側で戦争に使われています。これは単純な話で、銀行の運用の中に米国債があるからです。このように、預けたお金がどこで運用されるかは、預けた皆さまからはコントロールできません。本来これを変えられるのは所有者である皆さましかいません。従って、本当に価値のある所にお金を回そうと思ったら、皆さまで協力していくことしかありません。銀行としては、預かったお金で絶対に損を出せませんので、安全で目減りしない所にしかお金を回せません。従って、田舎より都会、田畑や山より技術のある企業などに寄っていきます。これ自体が悪いとは言いませんが、非常に偏っているのを直せるのは、われわれ一人一人が自己責任で、本当に価値があると思う所に投資する必要があります。ところが、日本の多くの方は、投資は危ない、ギャンブルだと言います。これにも大きな誤解があります。投資は資金を投げると書きますが、これは明治時代に当てた漢字です。

元の英語はinvestで、inとvestを合わせたものです。vestとはベスト、服です。この意味は、これから社会に出ていく青年が自分の学んだことを実現するために必要なスーツをそろえて、その中に身を入れるというものです。自分のために行うのが本来の投資の意味です。その意味で、本当に自分のためにも社会のためにもなることを自己責任で選んで、そこにインベストしていただきたいです。銀行に預けるなど言っているわけではありません。全部は預けずに、少しでもご自身の手で森にインベストしてほしいと願っています。皆さまと一緒に言えば、少しずつでもお金の流れは変わると考えています。

しかし、ここにも一つのボトルネックがあります。自らインベストするとなるとリスクがありますから、正しい情報が必要です。ところが、森や山に対する情報が極めて不足しています。不動産業者でも森は売っていません。適正価格さえ分かりません。これは大変な問題です。当然売買が成立しませんので、山が新しい人に移っていきません。所有権の移転も起こってきません。従って、情報は非常に重要です。例えば上場企業では四半期に1度、会社四季報が出ます。しかし、山にはそれがありません。森林などの価値のあるものに対する四季報のようなものが必要だという問題意識を持っています。1999年に書かれた「穂の国森づくりプラン」には、森の価値の多様性や情報発信と整備の重要性が書かれていることを知り、大変感銘を受けました。これを実現していかないと本当のお金の流れの変化は生まれません。ぜひ実現した暁には、皆さまの自己責任でお金を動かしてほしいと思っています。

私がこの新しい金融の世界に足を踏み入れたのは、23～24歳の頃にバングラデシュに行ったことがきっかけです。そのグラミン銀行の創始者であるムハマド・ユヌスさんの所でいろいろなことを学びました。そこで彼に、当時、1人当たりのGDPで世界第2位だった日本人が、同じく世界最貧国だったバングラデシュ人の自分以上のことができないわけがないと諭されました。そして帰国してから私の挑戦が始まりました。ぜひ皆さまにも、少しでもよいですから本当の意味でのインベストを始めていただきたいです。そうすれば将来お金の流れが変わってくるのではないかと願っています。

神野 先ほどお話のあった「穂の国森づくりプラン」の中で、唯一できていないものが「森林情報センター」です。これを何とか全国に先駆けてつくりたいと思っています。2003年に行ったドイツでは、ちょうど奥三河ほどのエリアの森林情報がデータベースとして集積されていました。そして、大学の先生や高校の生徒たちなどがそれをベースに勉強をしていました。また、林業関係だけではなく、さまざまな自然情報や環境情報もありました。そこでは林務課の技官のような人や大学の先生、学生さんなどが働いていました。ぜひ、このような



施設奥三河につくればよいと思っています。森林のあらゆる情報が集まり、森林資源の維持管理、観光、スポーツ、健康、美容、癒やしの場などとして、さまざまなイベントを展開したいと思います。森林の多目的な価値を体験できる場所、あるいは、人がつながる場所としても活用したいと思います。

穂積 新城市長の穂積です。私は20年前に穂の国森づくりの会の専務理事をしていました。大変多くの勉強をさせてもらい、流域の森を守るためのさまざまな仕組みや提案をしました。そして、豊川水源基金を母体にして「水源林保全流域保全協働事業」にこぎ着けました。また、自治体の大きな連携のための東三河広域連合も数年前に出来上がりました。最後に残ったのが「森林情報センター」です。今、大きく時代が変わってきていますので、実現の可能性が出てきていると思っています。森づくりプランを書いた当時は、まだ林業と環境保護が対立項として考えられていました。さらに森林の所有者情報や境界確認が曖昧でした。しかし、その後、公金を投じて、個人所有の山を整備していきました。

今、国の税制で(仮称)森林環境税が作られようとしています。この画期的な点は、実施の主体が市町村であることです。そこで森林を集約化し、放棄されている森林を公共で預かって再委託を掛けるなど、ある程度土地の所有者に対して公的なコントロールをする仕組みが出来上がろうとしています。その一方で、例えば豊橋市には既に森林の担当部署がありません。従って、流域全体の市町村が共同して森林環境の仕組みを作っていかなければいけない時代に入っています。しかし、そのために必要な森林に関するデータが決定的に不足しています。そこで、市町村に下りてくる(仮称)森林環境税に期待が掛かっています。

神野 国破れて山河在りという言葉がありますが、このままでは国破れて山河もなくなってしまうのではないかと心配しています。残された時間は少ないかもしれませんが、今できることを実行に移すことで、循環型社会、サステナブル社会は日本でも十分できると思います。

穂の国森づくりの会の新たな取り組み

次世代リーダー養成研修

森林空間を活かした新たな試み (2017年～)

緑と水が豊かな森林の中で、オフィスでは気付きにくい豊かな発想力、直感力、判断力を養い、自らのワークスタイルを進化させ、これからの会社の在り方、働き方を見直し、コミュニケーション力を育む研修です。



これからの働き方を創造する



焚き火を囲んで異業種交流



自然の中で心身の整え方を学ぶ

森林情報センター構想の実現に向けて

「穂の国森づくりプラン」の最後の課題である「森林情報センター構想」の実現に向けて、関係団体と連携しながら、具体的な森林情報センター像を構築を図っていきます。

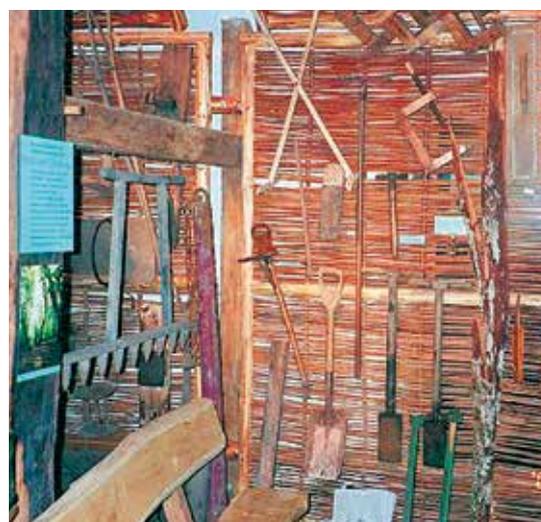
また、森林情報センターが東三河地域で実現する気運の醸成を図るため、公開セミナーや公開シンポジウムも開催します。



セミナーの開催

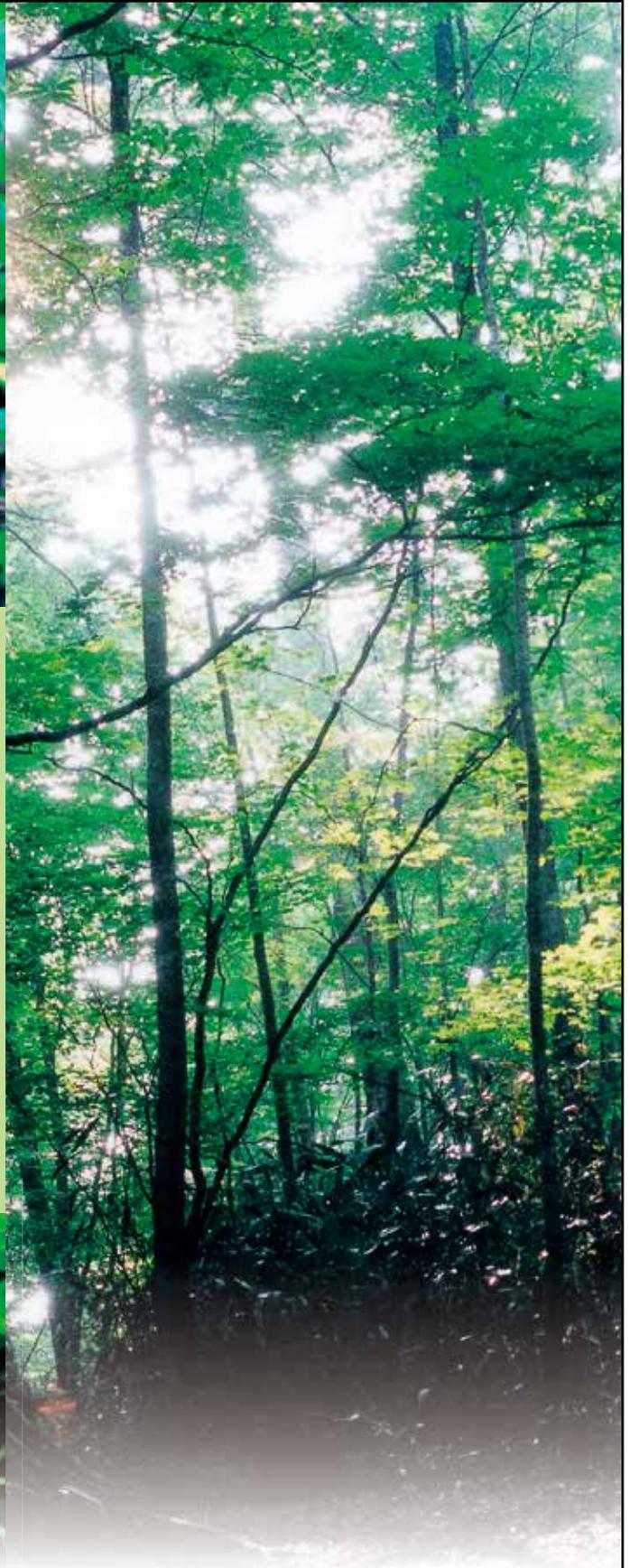


森林情報が集約された図面(ドイツ)



森林体験施設「エールホルンNO.1」(9ページ参照)の室内(森林業の様々な道具を展示)

編集後記



NPO(特定非営利活動法人)

穂の国森づくりの会

細部まで永年に亘り愛着の湧く家づくり。



id house
Innovation design house
www.id-house.jp

人と街の未来をクリエイト。

総合建設業
井口土建株式会社
www.iguchi-doken.co.jp

暮らしを愉しむパッシブソーラーハウス



小さなエネルギーで
快適に暮らす
知恵のつまった
穂の国の家

株式会社 **イトコー**
〒442-0069
豊川市諏訪西町2丁目248番地

☎ **0120-86-4191**
イトコーの家

おかげ様で豊川の地で58年を迎えました

木の温もりを暮らしの中に



木造軸組工法プレカット・内装工事・土木資材

株式会社 **ウッディシステム**
代表取締役 石原 勝好

〒442-0889 愛知県豊川市南大通5-41-1
TEL(0533)83-3011 FAX(0533)80-5320

<http://www.woodysystem.co.jp>



有限会社 **エスケー商会**

〒490-1112 あま市上萱津銭神38-1
TEL.052-445-3180 FAX.052-445-4500



大谷左官
OHTANI SAKAN

149年の信頼と実績

浴室・キッチン・トイレの増改築～水回りの専門館



豊橋市湊町80
電話0532-52-5858(代)

<https://itp.ne.jp/info/237905976200000899/>



OFFICE SUPPORT CENTER
www.osc-kk.co.jp

会長 村松 史子
代表取締役 村松 光
株式会社 オフィスサポートセンター
〒441-8113 豊橋市西幸町字古並42-2
TEL 0532(47)0661 FAX 0532(47)4077



CONSTRUCTION & CONCRETE
KAWAKEN

〒441-3432 田原市野田町山合口2-4
TEL.0531-25-1188 FAX.0531-25-0864

平日・土曜日・祭日営業
日曜日定休

営業時間
午前十一時半から午後三時

株式会社 久野商店
昼飯処
みながみ
大上食堂

豊橋市駅前大通二丁目71番18 大豊ビル商店街内

リサイクル100%循環型社会へ

 **有限会社 久野商店**

〒430-0838
静岡県浜松市南区嵐野町219番地
TEL.053-426-2715
FAX.053-426-2265
<http://www.kunosyoten.jp>

株式会社
久保田紙店

〒440-0092 豊橋市瓜郷町一新替30
TEL.(0532)53-5353 FAX.(0532)53-7785

素敵なまちのパートナー

小池商事株式会社
www.ekoike.co.jp

〒443-0057 蒲郡市中央本町9番6号
TEL.0533-68-5101 FAX.0533-69-2505

～地域のねがいをカタチに～

私たちは東三河で グローバルに活躍する企業と
人びとの暮らしを応援します

 **株式会社 総合開発機構**

〒440-0888 豊橋市駅前大通二丁目33番地の1
TEL.0532-55-3136 FAX.0532-55-3130
<http://www.kaihatsukikou.co.jp>



総合ポートサービス株式会社

〒441-8074 豊橋市明海町5番地1
TEL.0532-23-0281 FAX.0532-23-3124

時代の先へ。ひとりのそばへ。


中部電力

超高層ビルから住宅まで鉄骨建築のエキスパート
国土交通省認定 Hグレード

東和鋼業 株式会社

〒442-0824 愛知県豊川市下長山町高畑6番地
<http://www.fab-towa.co.jp>

豊かな暮らしのお手伝い
豊川信用金庫

豊川市末広通3丁目34番地1

☎ (0533) 89-1151 (代)

<http://www.kawa-shin.co.jp/>

MUKAIYAMA
FORESTA
mukaiyama-foresta.com

あなたのライフスタイルをデザインする
岡山フォレスト



■フライダル「ルージュアルダン」 ■フラワーショップ「demi pou ozuma」 ■「とよほし中」文化センター
■肉とパスタの店「ストウブ」 ■アタヴィータ「テーブル&スチ」(豊橋スイミングスクール・クラブアタヴィータ・ホ
ディキュット 豊橋・チームゴキター アタヴィータ) ■「豊橋キッズダンスクリニック」 ■五右衛門「モリナ@ペパ
■ピーチライフショップ「ハレマカニ」 ■ナリス化粧品「デ・アイム」 ■美品スクール「アニー」 ■モリウインター

Produced by

豊橋倉庫株式会社 t-soko.com

本社 〒440-0864 豊橋市向山町一本松1-1 TEL:0532-54-1138 FAX:0532-54-1139
現頭事業所 〒441-8075 豊橋市神野ふぶ町1-5 TEL:0532-32-0136 FAX:0532-32-1808

藤本グループ
FUJIMOTO

名古屋・東京・豊橋・松本・浜松
小田原・長野・奈良・愛媛・大連

人と食を結ぶ架け橋でありたい。

外食産業を支える方々へ

携わるすべての方々のために、
外食産業の成長と繁栄に貢献していきます。

国産
割箸



A-11-100076
木づかい
サイクルマーク



K1005263
間伐材マーク

株式会社 **豊橋藤本商會**

豊橋市大村町大賀里112 TEL (0532) 53-8155

創業100年、更なる100年を目指して
培った技術で最高の物を



藤城建設株式会社

〒441-8019 豊橋市花田町字中ノ坪11

TEL.0532-31-4131 FAX.0532-32-4390

<http://www.fujishiro-kk.jp/>

一着の制服から、環境を大切に作る精神が育ちます。

トンボ学生服

企業ユニホーム・スポーツユニフォーム
学生服装・靴・鞆・傘・合羽・介護衣料

株式会社 **牧野本店**

〒441-8086 豊橋市問屋町5番地の1
TEL.(0532)32-0711 ☎ FAX.(0532)32-2197

愛知県内に5店舗(作業服のサンワ)、

WEBサイトは作業服のサンワマークで楽天市場に3店舗、
ヤフーショッピング、アマゾン自社サイト各1店舗展開中

松井商事株式会社

〒441-8086 豊橋市問屋町1-7

TEL.0532-32-6369 FAX.0532-32-7815

[松井商事.com](http://www.matsui-shoji.com)



新築
リフォーム
不動産

やまわきHOME



山脇木材株式会社 TEL.0533-88-2336 日曜定休

Real Dream Inc.
Make your dreams real

不動産賃貸・管理

リアルドリーム 有限会社

〒400-0892

愛知県豊橋市新本町65番地

TEL : 0532-54-6248

Fax : 0532-54-0408

JA愛知信連はJAとともに地域社会の豊かな未来を創造します



JAバンクあいち

愛知県信用農業協同組合連合会

〒460-0003

名古屋市中区錦三丁目3番8号 TEL.052-951-3613 FAX.052-953-6487

<http://www.jabank.aichishinren.or.jp/>

農業の魅力を、人へ、地域へ、そして未来へ。



イノチオグループ

イノチオホールディングス株式会社

〒441-8142 愛知県豊橋市向草間町字北新切 95

Tel.0532-48-5711 Fax.0532-48-5732

<http://www.inochio.co.jp/>

※社屋移転のため、住所、電話番号、Fax番号が変更になりました。



株式会社 オーズミ

〒488-0838 尾張旭市庄中町一丁目6-3

TEL.0561-53-9877 FAX.0561-53-9833

なければつくるそれがオノコムらしさ

Creation from



ONOCOM

なければつくる

株式会社オノコム

【本社】〒440-0856 愛知県豊橋市鍵田町36 TEL:0532-55-7700/FAX:0532-55-7701

【東京支店】【名古屋支店】【西三河支店】【豊橋支店】【豊川支店】【浜松支店】【名古屋駅前オフィス】【デザインセンター】【住宅事業部ハウズドゥ】

【海外拠点】【タイ支店】【フィリピン支店】



寿鉦業株式会社
ナーブ事業部

<http://www.narv-ie.co.jp>
〒441-8077 愛知県豊橋市神野新田町口/割164-1 フジビル2F
TEL. 0532-33-9988 FAX. 0532-33-3933

ナーブの家 🔍 検索

『人を、命を、社会を潤す』



各種自動販売機・食品機器・食品卸・直営販売

株式会社 **サン・カンパニー**



〒441-8157 豊橋市上野町新上野79-1

TEL.0532-45-9105 FAX.0532-45-3725

<http://www.suncompany.co.jp>



スマイル営業!!

株式会社 三立

〒490-1136 海部郡大治町大字花常字円楽寺12-3

TEL.052-449-2888 FAX.052-449-2877

食を通じて出会う人々にささやかな幸せを



GG INTERNATIONAL, INC

www.gginternational.jp

「信頼と安心」カタチが残り、語り継がれるもの。
明日をそして未来を託してください。



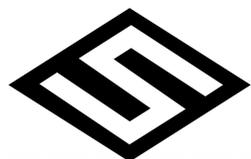
伸光建設株式会社

〒440-0083 豊橋市下地町北村44-6

TEL.0532-55-6429 FAX.0532-54-2534

～創業 60 年の信頼と実績～

快適な住空間の創造・提案を通じ地域社会に貢献する



株式会社 菅沼タイル店

一般港湾運送事業・通関業



総合埠頭株式会社

取締役社長 山口 皓 三

〒441-8074 豊橋市明海町5番地54 TEL(0532)23-2171(代) FAX(0532)23-0814

夢むすぶ。



DK ダイコク電機株式会社

〒450-8640 名古屋市中区那古野1丁目43番5号
TEL: 052-581-7111

事業内容

- ◎パチンコホール向けコンピュータシステムの開発・製造・販売
- ◎パチンコ遊技機用ユニット・パチスロ遊技機の開発・製造・販売

市 場

東京証券取引所・名古屋証券取引所市場第一部（証券コード：6430）

<http://www.daikoku.co.jp/>

スマホで呼ぶ、タクシー専用アプリ





TIKタク

(ティクタク)

Available on the App Store | Google play | 各ストアで「東海交通」と検索

TEL: 0532-57-1111 東海交通株式会社



伝える力
Communication power

豊川印刷(株)

名刺・伝票・封筒・ちらし・ポスター
デザイン・ホームページ作成
看板・横断幕・バナー・のぼり

お気軽にご相談下さい!

TEL(0533)86-3349 <http://www.print-box.jp/> 豊川印刷 検索

豊川市豊川町伊呂通25-4 / 営業時間 8:30~18:30 (土曜は15:00まで) / 定休日 日曜日・祝日 

光あふれる世の中を創ろう



株式会社 トヨタテック

代表取締役社長 小野 喜明

〒442-0024 豊川市西豊町二丁目35番地 URL <http://www.toyotec.com>

トヨタサークル



環境にやさしい市民の足

— 地域とともに歩む豊鉄グループ —








豊橋鉄道グループ

豊橋鉄道 豊鉄バス 豊鉄観光バス 豊鉄観光サービス 豊鉄ミデイ 豊鉄タクシー
豊鉄建設 トヨタテックオートサービス 豊鉄ターミナルホテル 豊鉄環境アシスト



NAKAZAWA

株式会社 中澤

【設計部(本社)】

〒441-8001 愛知県豊橋市野田町字野田317番地1

TEL.0532-31-1899 FAX.0532-31-1895

● E-MAIL info@kk-nakazawa.com

【木材部】

〒440-0071 愛知県豊橋市北島町字北島60番地2

TEL.0532-54-5658 FAX.0532-54-5659

● ホームページ <http://www.kk-nakazawa.com>

技術で世界に貢献しつづける定年のないものづくり企業

NISHIJIMAX

西島株式会社

愛知県豊橋市石巻西川町字大原12番地

TEL.0532-88-5511 FAX.0532-88-5522 <http://www.nishijima.co.jp/>





パチンコ・パチスロ総合商社

株式会社 アイ・ティ・シー

代表取締役 浅井 克好

愛知県名古屋市西区中小田井4丁目277番地
TEL(052)505-8887

万全の全国サポート!

エース電研のグループネットワークは、
機動力+対応力で「安心とサービス」を提供します。

A エース電研

<http://www.ace-denken.com/>

中部支社

〒465-0051

愛知県名古屋市名東区社が丘 1-1203

TEL:052-709-1828

本社

〒110-0015

東京都台東区東上野3-12-9

TEL:03-3835-0171



ace active amusement

<http://www.ace-pachinko.com/>

トリプルエーはエース電研のパチンコブランドです



岡崎信用金庫

おかしん

検索

<http://www.okashin.co.jp/>



豊かさ実る、タネを。
トヨタネ株式会社



豊橋銀行協会

(順不同)

三菱UFJ銀行	みずほ銀行	静岡銀行	三井住友銀行
三井住友信託銀行	清水銀行	十六銀行	愛知銀行
中京銀行	名古屋銀行	第三銀行	大垣共立銀行

「とよしん」は、
ずっとこの街といっしょです。



おたくも うちも

豊橋信用金庫

会 長 吉川 一弘

理事長 山口 進

豊橋市小畷町579番地

☎ (0532) 52-0321(代)

<http://www.toyo-shin.co.jp>

NPO 法人 穂の国森づくりの会
創立 20 周年おめでとうございます

オーギヤグループ

OGIYA GROUP

パチンコ・スロット（愛知・岐阜・静岡・長野・滋賀・兵庫県下に21店舗）

豊橋駅前店

TEL：0532-55-6637

チャンピオン

北館・南館

TEL：0532-48-4300

W O

TEL：0532-47-9000

グランプリ

TEL：0532-31-8158

二川店

TEL：0532-41-6666

大清水店

TEL：0532-25-2144

X O

TEL：0531-23-0303

D O

TEL：0533-89-2600

豊川蔵子店

TEL：0533-83-5700

G O

TEL：0533-88-7177

磐田店

TEL：0538-36-6700

半田店

TEL：0569-24-3700

西尾店

TEL：0563-57-7770

安城店

TEL：0566-74-2226

江南店

TEL：0587-54-8811

本巣店

TEL：058-323-7718

恵那店

TEL：0573-22-9910

飯田店

TEL：0265-25-8777

彦根店

TEL：0749-47-5330

垂水店

TEL：078-791-1055

スパゲッティ専門店・ゴルフ練習場・サウナ・介護・不動産



不動産、保険のご相談は

大木開発株式会社

愛知県知事 (15) 第 2669 号



スパゲッティチャオ

本店 アピタ向山店

赤岩店 垂水店 他 FC 2 店舗



まちのオアシス OASIS of the town

グループホーム前田

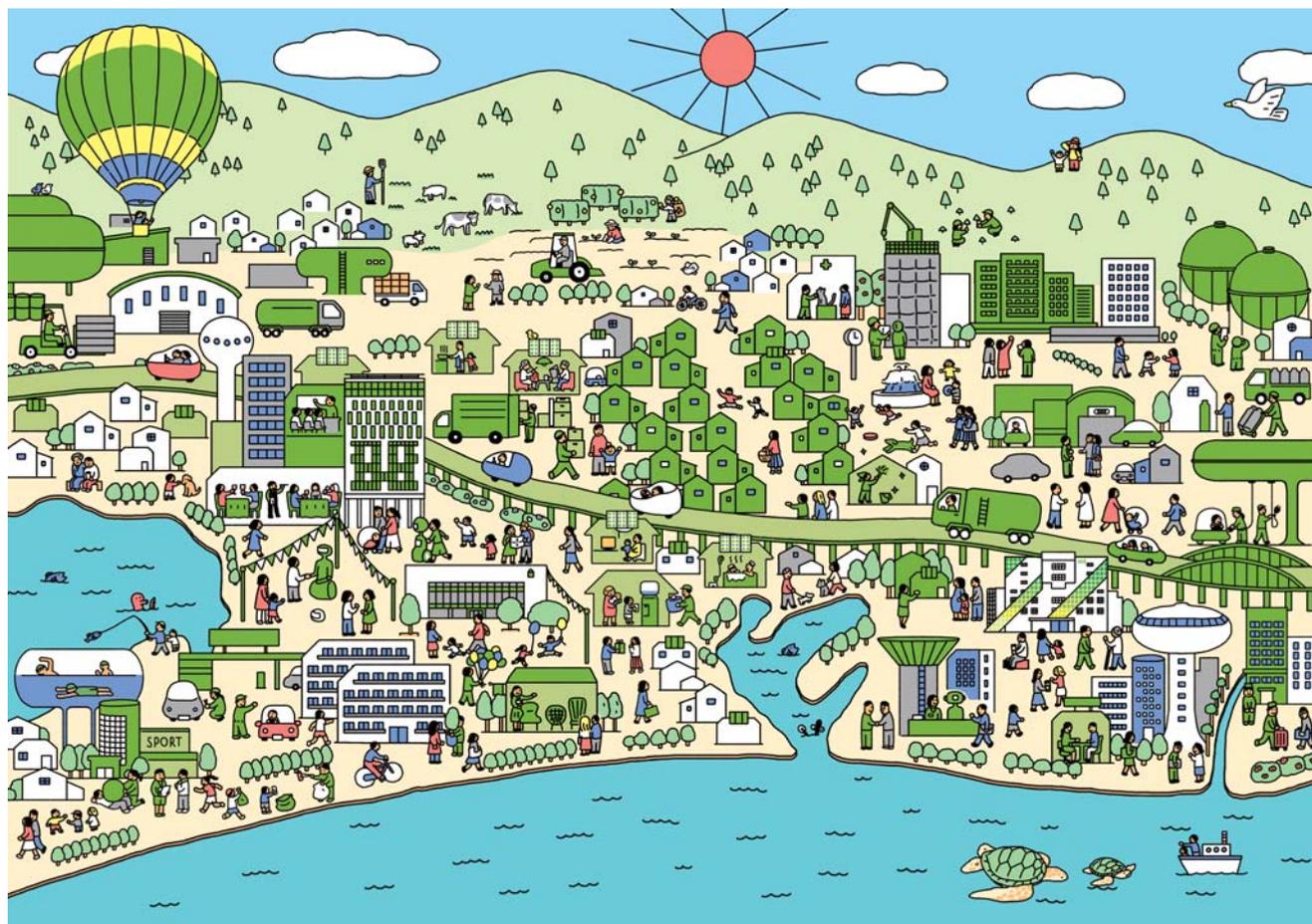
小規模多機能前田

株式会社大木家 本社：愛知県豊橋市広小路1丁目43番地

TEL：0532-53-3776

<http://www.ogi-ya.co.jp/>

私のまちにSALA、暮らしとともにSALA



私たちサーラグループは、地域の皆さまの様々なニーズにお応えし、エネルギーをはじめとした暮らしを快適にするサービスをお届けしています。

誰もが笑顔で過ごせる毎日のために、うれしいサービスを次々と。暮らしとともにサーラ。

sala サラグループ

中部ガス株式会社 / 株式会社ガスリビング中部 / 株式会社ガスリビング浜松西部 / 株式会社ガスリビング浜松北部 /
サーラガス磐田株式会社 / サラ e エナジー株式会社 / サラ e パワー株式会社 / ガステックサービス株式会社 /
グッドライフサーラ関東株式会社 / サラ物流株式会社 / 株式会社リビングサーラ / サラの水株式会社 /
三河湾ガスターミナル株式会社 / 株式会社日興 / 神野オイルセンター株式会社 / 中部プロパンスタンド有限会社 /
浜松プロパンスタンド有限会社 / 株式会社KANTOH / 株式会社中部 / 神野建設株式会社 / 株式会社鈴木組 /
株式会社中部技術サービス / テクノシステム株式会社 / 西遠コンクリート工業株式会社 / トキワ道路株式会社 /
株式会社昭和クリーナー / 株式会社中部ビルサービス / 株式会社誠和警備保障 / サラ住宅株式会社 /
中部ホームサービス株式会社 / 太陽ハウジング株式会社 / サラハウスサポート株式会社 / エコホームパネル株式会社 /
サーラカーズジャパン株式会社 / 株式会社アスコ / 大和医薬品工業株式会社 / 中部ガス不動産株式会社 /
株式会社サーラホテル&レストランズ / サラスポーツ株式会社 / サラフィナンシャルサービス株式会社 /
株式会社サーラビジネスソリューションズ / 株式会社サーラライフスタイルイノベーション /
新協技研株式会社 / 株式会社エス・アール・ピー

株式会社サーラコーポレーション

<http://www.salagroup.jp/>